

“新しい生活様式”のなかで自分らしく生きるために

～男女共同参画に関わる市民団体の取り組み～

昨年、コロナ禍で提唱された“新しい生活様式”は、一人ひとりが日々留意することを基本に、働き方、教育、介護など、暮らしに大きな変化をもたらしました。

そこで今回は現状を鑑みて、市内で男女共同参画に関わり活動している団体の活動に注目し、新たに発生した問題点や対策などをアンケート形式で聞いてみました。

これからの時代に沿いながら、人として、社会の一員として、どんな社会づくりが必要なのでしょう。

- 質 問**
- ① コロナ禍で新しく出てきた問題点
 - ② その対策
 - ③ 今後どんな社会になればいいと思うか



北名古屋市女性の会

- ① 昨年3月以降の活動が中止となり、会員同士の交流が途絶えてしまったこと。
- ② 月々に「たより」を発行して、新型コロナに関する情報などを掲載し、つながりを持つようにした。少人数での教室の活動は再開している。
- ③ 社会には「人」にとって、さまざまな生きがいがあると思う。いくつになっても何事にも興味を持って楽しく生きていけるような社会であってほしい。その一助となるような活動を続けていきたい。

NPO法人子育てネットワークあすなろ

- ① 情報が錯綜する中、必要以上の恐れを与えず、子どもたちや講座受講者に備えるよう伝えることが難しい。
- ② 何度も「手指消毒」「マスク着用」「3密回避」を分かりやすく伝えるとともに、思いやりを持って対応した。
- ③ コロナ禍で、お互いを思いやる心が、自分にも他人にも社会にも良い結果をもたらす、ジェンダーレスの社会になるといいと思う。



NPO法人次世代健全育成サポートあひるっこ



- ① 社会とともにたくさんの課題が見えてきたと同時に、どのようなアプローチが必要かを考えなくてはならなく、たくさんの宿題をもらった気がした。
- ② 子ども食堂については開催できないので、寄付によるフードパントリーを常設した。子どもたちとは手紙や交換ノートなどでコミュニケーションをとった。子育て世代にはリモートで子育て支援を行い、画面上ではあっても親子とつながることができた。
- ③ 感染予防をしながら安心安全に過ごせるようにして、活動を継続することが大切と考えている。子どもたちがのびのびと健やかに成長することを望み、自分たちに何ができるのかを模索しながら、明るい未来が来るようにと願う。

地域'S

- ① 防災教育を続けてきて、感染予防の観点が薄かったと痛感した。今後起こり得る南海トラフに備えて、感染予防もしっかり視野に入れた防災教育プログラムを作っていかなければと思った。
- ② いろいろな行事が中止になり何もできず苦労しているが、広い公会堂を地域の方から借り、学習支援だけはできている。
- ③ 今後に備えて感染予防対策がしっかりできた「自助」「共助」「公助」「近所」になれるといいと思う。



託児グループ『めばえ』



- ① 活動が激減し、ライフワークの一部にしていた会員がストレスを募らせた。託児の活動はどうしても3密は避けられない。
- ② 各自で体調管理に心掛け、マスク着用、手洗い、うがいなど徹底した。後日、メールで体調確認した。活動中は広い空間でおもちゃなど数力所のコーナーに分散し、使用したものはすべて行政に消毒・管理をお任せした。
- ③ 対面で気軽に会話ができる社会を願う。